

校長室だより



気仙沼市立九条小学校
令和5年3月24日
最終号
校長 白倉 彩枝子

かしこく やさしく たくましく



みんな笑顔で 進学・進級！

3月17日、6年生62名が、在校生からの感謝の言葉と温かい応援を胸に、九条小学校を巣立っていきました。

振り返れば、卒業生の小学校生活の半分がコロナ禍でした。「毎日の検温」「マスク着用」「手指消毒」「三密回避」、そして「黙食」等々、制約や制限の多い、不自由な学校生活を過ごしました。世間では、コロナ禍を生きる子供たちを「コロナ世代」と呼び、「かわいそうな世代」だと同情する人もいます。



しかし、私はこの一年、卒業生と学校生活を共に過ごして「かわいそうだ」と思うより、私たち大人世代が知らない経験知を積み、力強くしなやかに学校生活を過ごしているなど感心した程です。不自由な生活の中でも希望を失わず、有意義な学校生活にしようと、学校行事や児童会活動はもちろん、毎日の授業にも、努力や協力を重ねる姿をたくさん見ることができました。特に、すばらしかったのは、総合的な学習の時間「気仙沼の未来～気仙沼の魅力を探ろう～」の学習です。

子供たちは、気仙沼の魅力を、「豊かな自然」「新鮮な水産物」「充実の観光地」「人々との絆」とし、それぞれのテーマについて見学や調査など探究活動をとおしてまとめ、広く地域に発信しました。初めて参加した「海洋教育子どもサミット」でも、東北地方の小中高生と、お互いの学びを交流し深めることができました。その発表は、復興の未来に向かうすばらしい内容だったと、たくさんの方から称賛の言葉をいただきました。

こうして振り返ると、卒業生は、九条小学校の新たな学びの姿を、たくさん見せてくれたように思います。このバトンを、5年生が、しっかり引き継いでくれることでしょうか。卒業式の予行練習に参加した5年生の真剣な表情を見て、（来年度もきっと充実の一年にしてくれるだろう。）と確信しました。

さて、本日は修了式です。各学級の代表児童が、修了証書を立派にいただきました。

修了証書は、この一年の成長と努力の証しです。また、その様子が詳しく記されているのが、通信票「かけはし」です。「かけはし」が学校と家庭だけでなく、子供と御家族をつなぐ「心のかけはし」になることを願っています。「できること」が大切なのではなく、「できるようになったこと」や「できるように努力すること」が大切なのだと思います。子供たちの成長や努力の様子に、ぜひ励ましと称賛の言葉を掛けてあげてください。

コロナ禍3年目の令和4年度も、サポーターである保護者の皆様の御理解、御協力で、充実の教育活動を推進することができましたことに、改めて感謝申し上げます。来年度も変わらぬ温かい応援を、どうぞよろしくお願いいたします。

※ 裏面には、令和5年度設置の「学校運営協議会」について紹介しています。どうぞ御一読ください。